

# 特定外来生物

# 同定マニュアル

## ■ 魚類

ガー科	(Lepisosteidae spp.)
オオタナゴ	( <i>Acheilognathus macropterus</i> )
コウライギギ	( <i>T. fulvidraco</i> )
ブラウンブルヘッド	( <i>A. nebulosus</i> )
チャンネルキャットフィッシュ	( <i>Ictalurus punctatus</i> )
フラットヘッドキャットフィッシュ	( <i>P. olivaris</i> )
ヨーロッパナマズ	( <i>S. glanis</i> )
カワカマス科	( <i>Esocidae</i> )
カダヤシ	( <i>Gambusia affinis</i> )
ガンブスィア・ホルブロオキ	( <i>G. holbrooki</i> )
ブルーギル	( <i>Lepomis macrochirus</i> )
コクチバス	( <i>Micropterus dolomieu</i> )
オオクチバス	( <i>Micropterus salmoides</i> )
ラウンドゴビー	( <i>N. melanostomus</i> )
ナイルパーチ	( <i>L. niloticus</i> )
ホワイトパーチ	( <i>M. americana</i> )
ホワイトバス	( <i>Morone chrysops</i> )
ストライプトバス	( <i>Morone saxatilis</i> )
ホワイトバス×ストライプトバス	
ラッフ	( <i>G. cernua</i> )
ヨーロッパアンパーチ	( <i>Perca fluviatilis</i> )
パイクパーチ	( <i>Sander lucioperca</i> )
ケツギョ	( <i>Siniperca chuatsi</i> )
コウライケツギョ	( <i>Siniperca scherzeri</i> )

# ガー科

## (ガー科に属する種間の交雑により生じた生物を含む)

分類：ガー目ガー科

学名：ガー科 Lepisosteidae spp. (各種の学名は下表参照)  
ガー科に属する種間の交雑により生じた生物  
Lepisosteidae spp. × Lepisosteidae spp.

英名：Gars (各種の英名は下表参照)

別名：ガーパイク、ガー (個別の種の別名は下表参照)

原産地と分布：ガー科全体としての原産地は北米大陸のカナダケベック州からコスタリカ。

日本国内には定着していない。海外では、ガー科全7種のうちショートノーズガーのみ移入による定着が確認されており、ウィスコンシン州の非自然分布域に侵入して定着している。

ガー科に含まれる種：ガー科には下表の2属7種が含まれる。

和名	学名	英名	別名	原産地
アリゲーターガー	<i>Atractosteus spatula</i>	Alligator gar		北米
キューバガー	<i>Atractosteus tristoechus</i>	Cuban gar	マンファリ	キューバ
トロピカルガー	<i>Atractosteus tropicus</i>	Tropical gar	トロピカル・ジャイアントガー、 チャパシウスガー、ニカラグアガー	中米
スポッテッドガー	<i>Lepisosteus oculatus</i>	Spotted gar		北米
ロングノーズガー	<i>Lepisosteus osseus</i>	Longnose gar		北米
ショートノーズガー	<i>Lepisosteus platostomus</i>	Shortnose gar		北米
フロリダガー	<i>Lepisosteus platyrhincus</i>	Florida gar		北米

未判定外来生物:なし

種類名証明書添付生物:ガー科の全種及び  
ガー科に属する種間の交雑により生じた生物

形態的特徴：本科内での最大種はアリゲーターガーで、最大体長は3mを超える。この他の種についても最大全長1~2mになる。ワニのような特徴的な顔をしている。背鰭と臀鰭は共に尾鰭の直前にあり、背鰭が臀鰭より後ろにある。尾鰭は上下非対称の構造をしており、その後端は丸い。体色は多くの種が黒褐色からオリーブ色で、暗色の斑点や模様があるものが多い。

背鰭(せびれ)と臀鰭(しりびれ)は共に尾鰭(おびれ)直前に位置し、背鰭が臀鰭より後ろにある

©jwrc 撮影協力:しながわ水族館



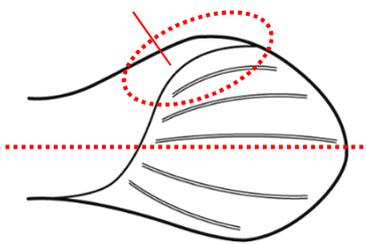
ワニのように平たく延びた、  
特徴的な口。

アリゲーターガー

尾鰭(おびれ)の後縁は丸い

**ガー科の尾鰭：**ガー科は古代魚であり、他の魚とは尾鰭の構造が異なる。一般的な現生の魚類は一見上下対称の尾鰭を持っているが、ガー科は上下非対称の尾鰭を持っている。この構造の違いは、ガー科魚類を見分ける上で非常に有効な識別点となる。また、ガー科の稚魚や幼魚ではこの特徴が特に顕著に現れる。

この部分が下半分にはない

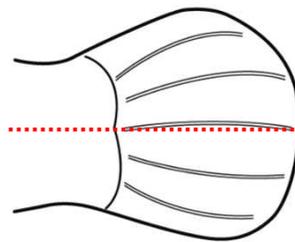


上下非対象

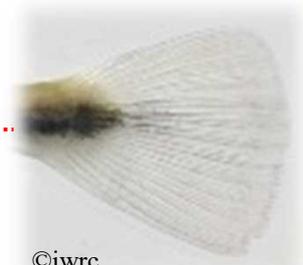


©jwrc 撮影協力:しながわ水族館

ガー科の尾鰭



上下対象



©jwrc

一般的な魚類の尾鰭

**類似種との識別点：**一見するとガー科と見間違えるような種でも、以下の点に着目することで比較的容易に見分けることができる。

- ・口は長く伸びる
- ・口は上下に平たい
- ・背鰭は臀鰭より後ろにある
- ・尾鰭は上下非対称になっている（上段の囲み参照）
- ・尾鰭の後縁は丸い

これらの特徴が**全て該当すれば、ガー科である可能性が高い。**  
逆に、一つでも該当しなければ、ガー科ではない。

口は上下に平たい



©jwrc 撮影協力:しながわ水族館

アリゲーターガー

背鰭が臀鰭より前

©jwrc



ブラントノーズガー(カラシン目カラシン科)

尾鰭後縁が切れ込む

背鰭と臀鰭の基底が長い

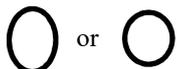


©jwrc

ニードルガー(ダツ目ダツ科)

背鰭と臀鰭が同じ位置

正面から見た  
口の断面



※ガー科の口は



**特記事項：**比較的ポピュラーな観賞魚として、かつては稚魚や幼魚が多く販売されていた。国内では未定着だが、野外で複数個体が同時に見られた場所もあるため、定着の危険性が高い。

# オオタナゴ

分類：コイ目コイ科

学名: *Acheilognathus macropterus* (Bleeker, 1871)

英名: なし

和名: オオタナゴ

別名: タナゴ

原産地と分布: 原産地は中国、朝鮮半島、アムール川。

原産地以外の移入分布が知られているのは、現在のところ日本のみ。

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: タナゴ属の全種

**形態的特徴:** 体は側扁し体高が高い。ロヒゲは1対あるが短くて目立たない。オスの婚姻色は体がほのかにピンクを帯び、臀鰭の外縁が白く縁取られる。背鰭、臀鰭基底が長く、鰓蓋後方に目立つ暗色斑があることで他のタナゴ類と識別出来る。メスでは胸鰭の基部、腹鰭と臀鰭の前縁が黄色になる。稚魚や幼魚では背鰭に明瞭な黒斑があるが、この黒斑は成長に伴って消失する。また、稚魚や幼魚では成魚ほど体高が高くない。全長は通常18~20cmで最大27.5cm。タナゴ類で最大の種。

オス

背鰭(せびれ)、臀鰭(しりびれ)基底が長い

ロヒゲは目立たない



© JWRC

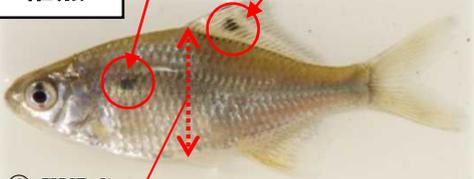
オスの婚姻色では臀鰭(しりびれ)の外縁が白く縁取られる

鰓蓋(えらぶた)の後方に目立つ暗色斑がある

メス

稚魚の背鰭(せびれ)は黒斑が目立つ

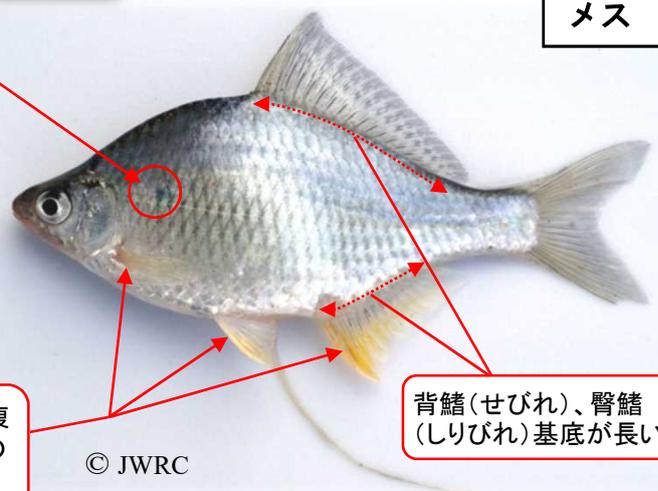
稚魚



© JWRC

稚魚は成魚に比べて体高が低い

メスの胸鰭(むなびれ)の基底、腹鰭(はらびれ)と臀鰭(しりびれ)の前縁は黄色



© JWRC

背鰭(せびれ)、臀鰭(しりびれ)基底が長い

**特記事項:** 霞ヶ浦と北浦を中心に、千葉県、東京都、埼玉県、栃木県の利根川水系に分布している。タナゴ類は別種との間に雑種を作ることが知られており、在来種との交雑による遺伝子浸透が危惧される。特に西日本では、本種と同属の在来種はほとんどが絶滅危惧種であり、西日本に侵入した場合には大きな影響が出るおそれがある。

# コウライギギ

分類：ナマズ目ギギ科

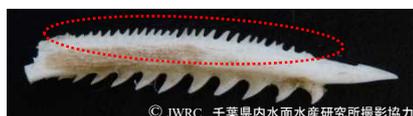
学名: *Tachysurus fulvidraco* (Richardson, 1846)  
英名: Yellow catfish  
和名: コウライギギ  
別名: イエローキャットフィッシュ  
原産地と分布: 原産地は東アジアのアムール川から韓国、中国南部。本種の移入分布は日本以外には知られていない。

未判定外来生物: なし  
種類名証明書添付生物: ギバチ属の全種

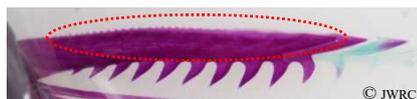
**形態的特徴:** 体色はやや黄色みを帯び、暗色域が体側面をいくつかに分けるような模様がある。尾鰭の上下に黒色帯がある。鱗はない。ヒゲは4対。背鰭と胸鰭に棘が有り、この棘にはノコギリ状のギザギザがある。尾鰭は深く切れ込む。似た魚にチャンネルキャットフィッシュとギバチ、ギギがあるが、チャンネルキャットフィッシュは体色が白味が強いことで、ギバチは尾鰭の切れ込みが浅いことで、ギギは体色のほか胸鰭の棘の前縁鋸歯構造がやや外を向いて密生しないことで識別することが出来る。全長は通常20cmで最大34.5cm。



## 胸鰭棘



コウライギギ

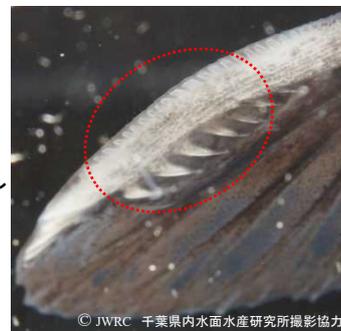


ギギ(在来種)※染色しています

・コウライギギの胸鰭(むなびれ)の棘の前縁の鋸歯構造は、ほぼ全面にやや外側を向いて密生する(写真左上)。

・ギギの胸鰭(むなびれ)の棘の前縁の鋸歯構造は、コウライギギほど大きくなく、全面に密生していない(写真左下)。

・胸鰭(むなびれ)を下から見ると、胸鰭棘の前後鋸歯構造が見える(写真右)



**特記事項:** 霞ヶ浦を中心とした利根川水系で定着している。同地域で既に定着して急増しているチャンネルキャットフィッシュと類似した生態をもつと考えられるため、本種についても同様に急増する可能性がある。本種と似た外見のチャンネルキャットフィッシュ、在来のギギ科魚類(ギギ、ギバチ、アリアケギバチ、ネコギギ)とは、体色、尾鰭の切れ込みの程度、胸鰭棘の構造から識別可能。

# ブラウブルヘッド

分類：ナマズ目イクタルス（アメリカナマズ）科

学名： *Ameiurus nebulosus* (Lesueur, 1819)

英名： Brown bullhead

和名： ブラウブルヘッド

別名： なし

原産地と分布： 原産地は北米大陸東部。移入により、アメリカやカナダの自然分布域外の他、ヨーロッパの各国、プエルトリコやメキシコ、チリ、イラン、ロシア、中国、ニュージーランドに分布している。

未判定外来生物： アメイウルス属の全種。ただし、ブラウブルヘッドを除く。

種類名証明書添付生物： アメイウルス属及びイクタルス（アメリカナマズ）属の全種

形態的特徴： 体色は、頭部から背面が暗褐色から灰色で、腹面にかけて色が薄くなる。体側面にまだら模様がある。鼻部に1対、上顎に1対、下顎に2対の、全部で8本の口ヒゲがある。ヒゲは黒から暗褐色。頭部は幅広く、下顎の幅よりも上顎の幅がやや広い。横から見た場合には、上顎も下顎も突出せずほぼ同じ位置に先端がある。背鰭基底は短く、鰭条数は7～8本。背鰭に対して臀鰭基底は長く、鰭条数は22～25本。尾鰭後縁はごくわずかに切れ込む。全長は最大で55cmになる。

背鰭(せびれ)基底は短い

尾鰭(おびれ)後縁はごくわずかに切れ込む

© Duane Raver, U.S. Fish and Wildlife Service

鼻部に1対の上ののびるヒゲがある

上顎(うわあご)に1対、下顎(したあご)に2対のヒゲがある

上顎あるいは下顎のどちらかが突出せず、先端はほぼ揃う

体側面にはまだら模様がある

臀鰭(しりびれ)基底は長い

特記事項： 国内には未侵入。海外では生態系に被害を及ぼした例があり、また国内の霞ヶ浦で定着して急増し、生態系に大きな影響を及ぼしているチャンネルキャットフィッシュと同じアメリカナマズ科に属しており似た生態をもつため、国内に侵入した場合に定着して被害を及ぼすおそれがある。ナマズ類は観賞魚として非常に多くの種類が流通しているが、体色や口ヒゲの付き方などに着目することである程度識別できる。

# チャネルキャットフィッシュ

分類: ナマズ目 アメリカナマズ科

学名: *Ictalurus punctatus* (Rafinesque, 1818)

英名: Channel catfish

和名: チャネルキャットフィッシュ

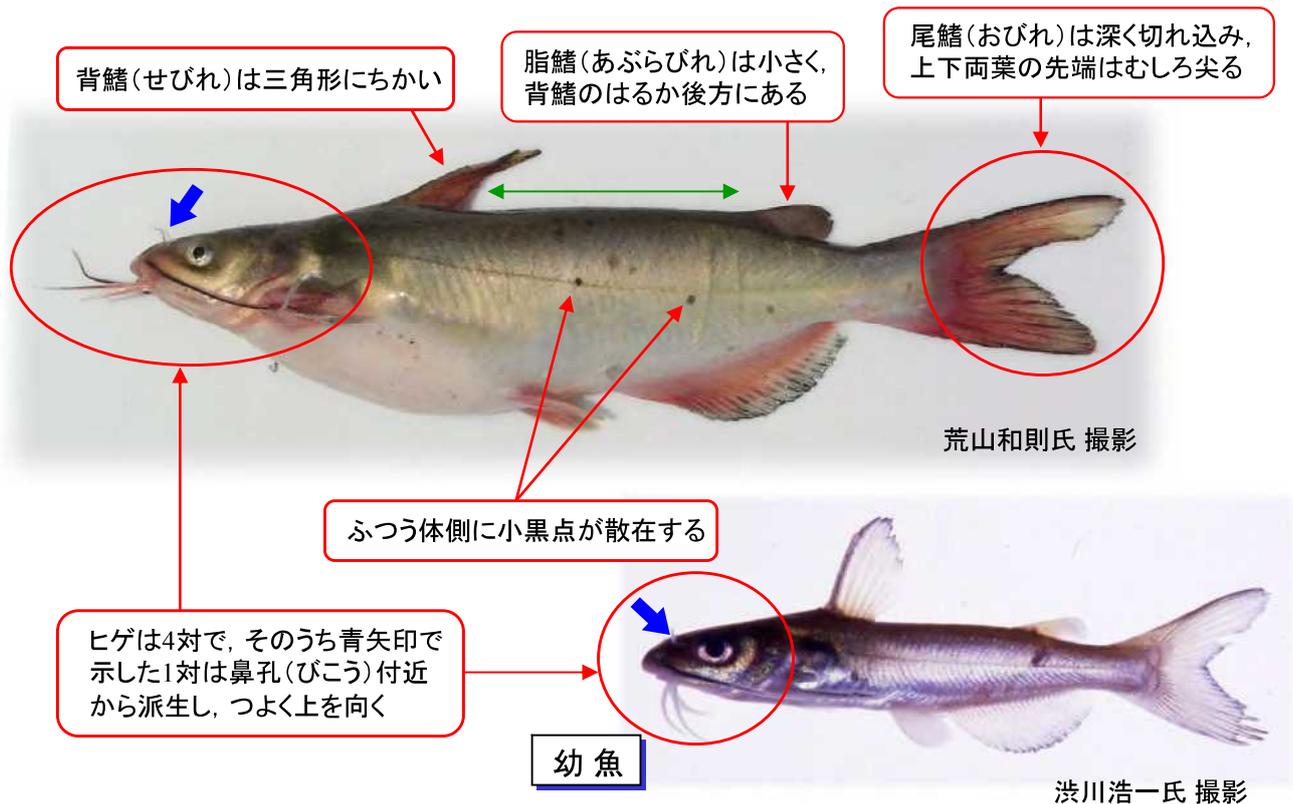
別名・流通名: アメリカナマズ, チャネルキャット, チャネルキャットフィッシュ(あるいはチャネルキャット), カワフグ, シミズダイ

原産地と分布: 原産地は北アメリカ(メキシコ北部～アメリカ合衆国およびカナダ南部)。現在では、日本を含む世界各地に移植されている。

未判定外来生物: アメリカナマズ科の2属(チャネルキャットフィッシュを除く *Ictalurus* および *Ameiurus*)

種類名証明書添付生物: なし。

**形態的特徴:** 背鰭(せびれ)は三角形にちかい形をしており、そのはるか後方に小さな脂鰭(あぶらびれ)がある。尾鰭(おびれ)は深く切れ込み、上下両葉の先端はむしろ尖る。頭部に4対のヒゲがある; そのうちの1対は鼻孔(びこう)付近から派生し、強く上を向く。体の背側は暗灰色で、腹方に向かうにつれ黄みあるいは青みがかった淡灰色となる。腹部は白色。ふつう体側に小黑点がまばらに散在する。大型個体ではふつう体色が黒ずみ、斑点も不明瞭となる。最大で全長1.3 m程度まで成長する。



**特記事項:** 利根川水系に定着しているが、外来生物法により生きたままの個体の運搬、保管、飼養が原則的に禁止されているため、捕獲時には適正に取り扱わなくてはならない。霞ヶ浦などの生息地においては、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、これまで観賞魚としても一部で流通していたが、今後は無許可での飼養は法令違反の対象となる。

# フラットヘッドキャットフィッシュ

分類：ナマズ目イクタルルス（アメリカナマズ）科

学名： *Pylodictis olivaris* (Rafinesque, 1818)

英名： Flathead catfish

和名： フラットヘッドキャットフィッシュ

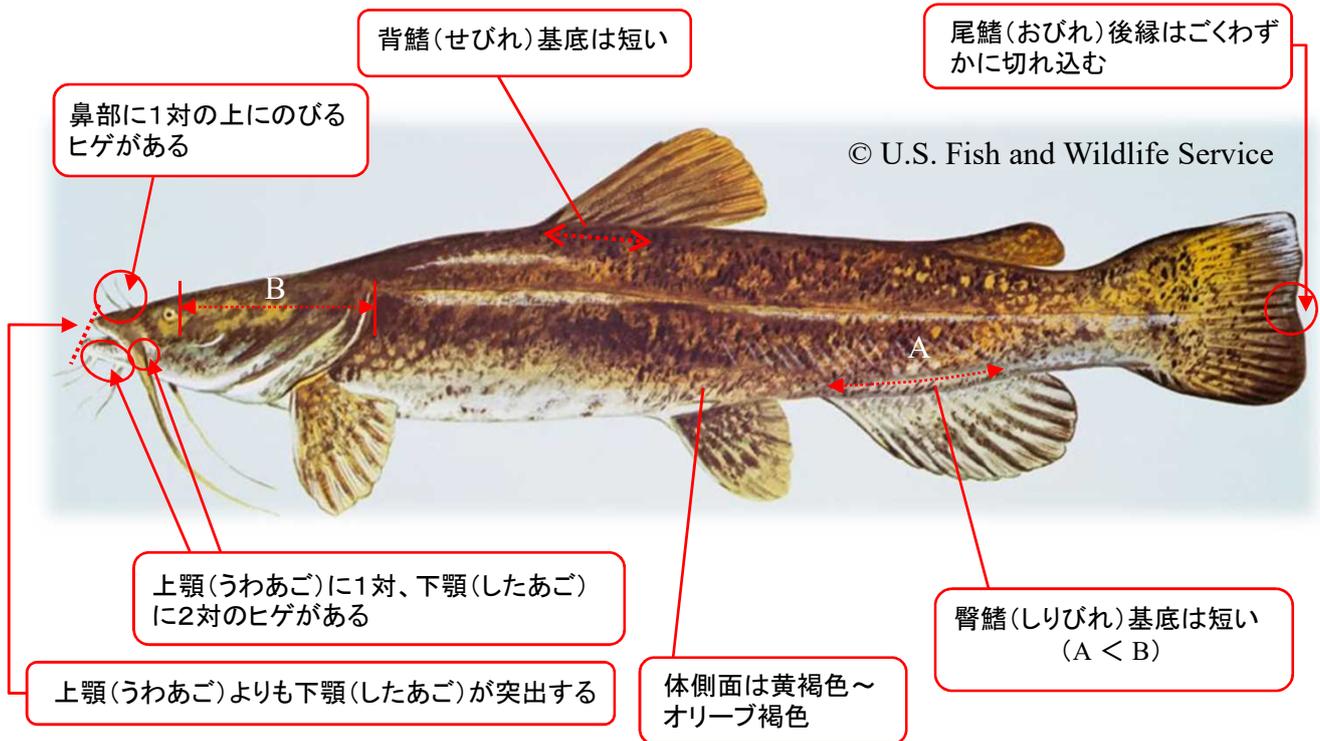
別名： マッドキャット、オペルーサス、シヨベルヘッドキャットフィッシュ、イエローキャットフィッシュ

原産地と分布： 原産地はメキシコからカナダ南部にかけての北米大陸東部及び中部。移入により、アメリカおよびカナダの自然分布域外に定着している。

未判定外来生物：なし

種類名証明書添付生物：フラットヘッドキャットフィッシュ

**形態的特徴：** 頭部は平たく幅広い。目は小さい。頭部と背面及び側面は黄褐色～オリーブ褐色で腹部は黄白色。幼魚では体側面に褐色から黒のまだら模様がある。上顎よりも下顎が突出する。臀鰭の基底は短く、後縁は丸い。臀鰭の鰭条数は14～17。臀鰭基底の長さは、目の後端から鰓蓋後端までの長さより短い。尾鰭後縁は僅かに切れ込む。鼻部に1対、上顎に1対、下顎に2対の、全部で8本の口ヒゲがある。全長は最大で155cmになる。



**特記事項：** 国内には未侵入。海外では生態系に被害を及ぼした例があり、また国内の霞ヶ浦で定着して急増し、生態系に大きな影響を及ぼしているチャネルキャットフィッシュと同じアメリカナマズ科に属しており似た生態をもつため、国内に侵入した場合に定着して被害を及ぼすおそれがある。ナマズ類は観賞魚として非常に多くの種類が流通しているが、体色や口ヒゲの付き方などに着目することである程度識別できる。

# ヨーロッパナマズ(ヨーロッパオオナマズ)

分類：ナマズ目ナマズ科

学名： *Silurus glanis* Linnaeus, 1758

英名： Wels catfish、Wels

和名： ヨーロッパナマズ

別名： ヨーロッパオオナマズ、ヴェルス

原産地と分布： 原産地は中央・東ヨーロッパ。移入により、イギリスからポルトガル、イタリア、ボスニア・ヘルツェゴビナまでの地中海沿岸を含むヨーロッパ各地、アフリカではチュニジア、アジアではシリアと中国に定着している。

未判定外来生物：なし

種類名証明書添付生物：ナマズ属の全種

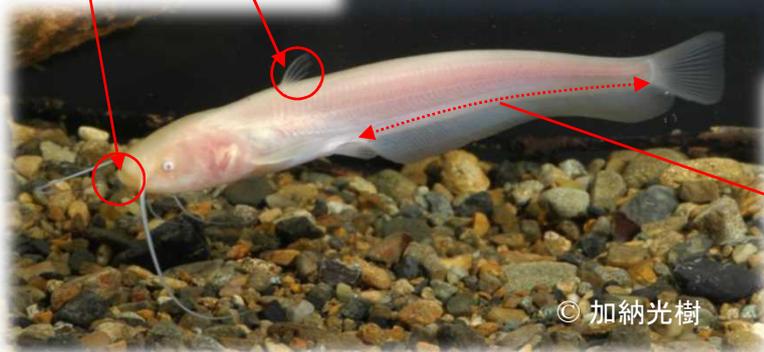
**形態的特徴**： 体型はナマズ型で、外見は日本のナマズによく似ている。体色は茶褐色からオリーブ色で、背部は暗色があり、体側にはまだら模様で白いブローチ状斑がある。上顎に1対、下顎に2対の口ヒゲがある。上顎のヒゲは長く、下顎のヒゲは短い。下顎が上顎より突出する。背鰭は小さく、臀鰭は基底が長く体長の半分以上にわたる。世界最大の淡水魚の一つであり、全長は最大で5mにもなるとされる。

下顎(したあご)の口ひげは2対ある。日本のナマズではこれが1対のみ。

上顎(うわあご)よりも下顎(したあご)が突出する

背鰭(せびれ)は小さい

臀鰭(しりびれ)基底は長く、体長の半分以上



© JWRC ながわ水遊園撮影協力

© 加納光樹

ヨーロッパナマズ稚魚のアルビノ個体。体型は日本のナマズとほぼ同じ。

**特記事項**： 国内には未定着。世界最大の淡水魚であり、そのサイズからも、国内に定着した場合には捕食によって生態系に大きな影響を及ぼすおそれがある。国内によく似た同属魚類が3種(ナマズ、イワトコナマズ、ビワコオオナマズ)いるが、これらの種とは下顎の口ヒゲの数で見分けることが出来る。ただし、国内の種も体長数cm程度の頃には下顎に2対のヒゲがあるため、注意が必要。

# カワカマス(パイク)科

## (カワカマス科に属する種間の交雑により生じた生物を含む)

分類：カワカマス目カワカマス科

学名：Esocidae spp. (*Esox americanus americanus*<sup>1</sup>, *E. americanus vermiculatus*<sup>2</sup>, *E. aquitanicus*<sup>3</sup>, *E. cisalpinus*<sup>4</sup>, *E. lucius*<sup>5</sup>, *E. masquinongy*<sup>6</sup>, *E. niger*<sup>7</sup>, *E. reichertii*<sup>8</sup>)、  
Esocidae spp. × Esocidae spp.

未判定外来生物：なし

種類名証明書添付生物：カワカマス科の全種及びカワカマス科に属する種間の交雑により生じた生物

英名：Pikes (Redfin pickerel<sup>1</sup>, Grass pickerel<sup>2</sup>, Aquitanian pike<sup>3</sup>, Northern pike<sup>5</sup>, Muskellunge<sup>6</sup>, Chain pickerel<sup>7</sup>, Amur pike<sup>8</sup>)  
和名：カワカマス科(レッドフィンパイク<sup>1</sup>、グラスパイク<sup>2</sup>、アキタニアンパイク<sup>3</sup>、ノーザンパイク<sup>5</sup>、マスキーパイク<sup>6</sup>、チェインパイク<sup>7</sup>、アムールパイク<sup>8</sup>と和名なし1種<sup>4</sup>の計8種・亜種を含む)、カワカマス科に属する種間の交雑により生じた生物(産業に利用されているノーザンパイク雄とマスキーパイク雌の雑種はタイガーマスキーと呼ばれる)

別名：パイク、カモグチ

原産地と分布：原産地は北米大陸のアメリカ合衆国北部とカナダ及びヨーロッパとアジア北部(ノーザンパイク)、北米大陸のアメリカ合衆国北東部からカナダ南東部(マスキーパイク、レッドフィンパイク、グラスパイク、チェインパイク)及びヨーロッパ東部(アキタニアンパイク、*E. cisalpinus*)、ロシア、モンゴル、中国の太平洋岸(アムールパイク)。ノーザンパイクはヨーロッパの非分布域(アイルランド、スペイン、ポルトガル)とアフリカの地中海沿岸(モロッコ、アルジェリア、チュニジア)とエチオピア、ウガンダ、マダガスカルに、マスキーパイクはアメリカ合衆国の非分布域に、チェインパイクはアメリカ合衆国とカナダの非分布域に、それぞれ移植されて分布している。

形態的特徴：体型は細長く棒状。アヒルの嘴のような特徴的な口をしている。背鰭と臀鰭は共に体の後ろの同じような位置にあり、尾鰭は二又する。胸鰭は下位につく。腹鰭は胸鰭と尻鰭のほぼ中間に位置する。体色は多くの種が茶褐色からオリーブ色で、まだら模様や斑点があるものが多い。本科内での最大種はマスキーパイクで、最大全長は183cm。次いで大きいのはノーザンパイクの最大全長150cm。アムールパイクは最大で全長115cm。この他はチェインパイクが99cmになるが、残りの4種は最大50cm前後。

© Ken Hammond, United States Department of Agriculture

体型は細長く、棒状

背鰭(せびれ)と臀鰭(しりびれ)は体のかなり後方にあり、上下対になる位置にある

チェインパイク

腹鰭(はらびれ)は胸鰭(むなびれ)と臀鰭(しりびれ)の中間に位置する

アヒルの嘴のような特徴的な口  
上顎(うわあご)よりも下顎(したあご)が突出する

胸鰭(むなびれ)は下位につく

尾鰭(おびれ)は二又する

特記事項：国内には未定着。同科内の一部の種が海外で競争や捕食などにより在来生態系に被害を及ぼしているために特定外来生物に指定されている。本種と似た外見であり、現在観賞魚として流通している種にペロネソックス、ブラントノーズガー、パイクカラシン、ハーブビークなどがあるが、これらの種とは顔の形状(顎の長さや歯のサイズなど)や鰭の位置、体型や鱗の細かさなどから容易に識別可能。

# カダヤシ

分類：カダヤシ目カダヤシ科カダヤシ属

学名：*Gambusia affinis* Baird and Girard, 1853

英名：Mosquitofish

和名：カダヤシ

別名：タップミノー

原産地と分布：原産地は北アメリカ（メキシコ北部～アメリカ合衆国ミシシッピ川流域）。現在では、移植により、日本を含む世界各地に分布する。

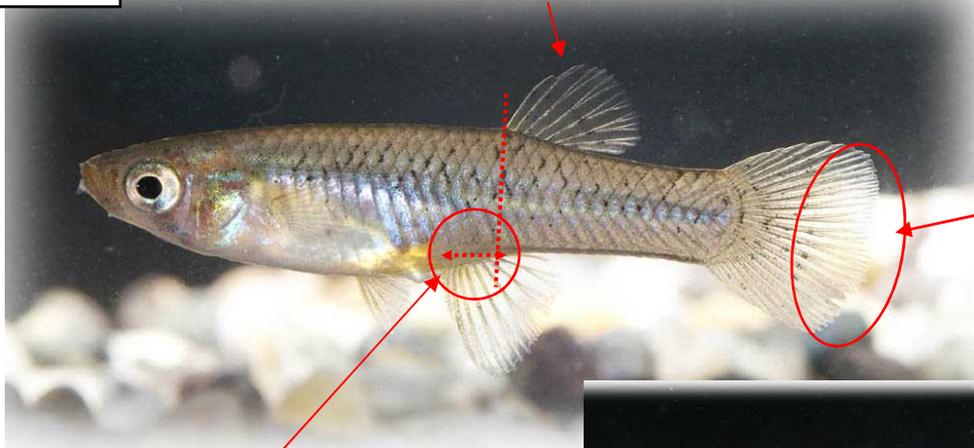
未判定外来生物：*Gambusia holbrooki*

種類名証明書添付生物：カダヤシと*Gambusia holbrooki*

**形態的特徴：**体高が低く頭が尖り、メダカに似た体型をしている。口は小さい。背鰭（せびれ）は体の真ん中よりも後方にある。背鰭、臀鰭（しりびれ）ともに基底は短い。メスでは背鰭、臀鰭ともに後端が丸く同じような形をしているが、成熟したオスでは臀鰭は細長く変形して交尾器になる。交尾器は非常に長く、腹鰭（はらびれ）の長さの数倍になる。メスの背鰭基部は臀鰭基底の真ん中よりも後方にある。尾鰭（おびれ）の後縁は丸い。鱗（うろこ）は大きく、側線鱗数は28～32。背鰭前方の鱗数は16～17。体はやや青みがかった灰色～灰褐色。体側上部に小さな黒い点がある事もある。全長はオスで3cm、メスで5cm程度までになる。

メス

背鰭（せびれ）は1つで体の真ん中より後ろ寄りにある

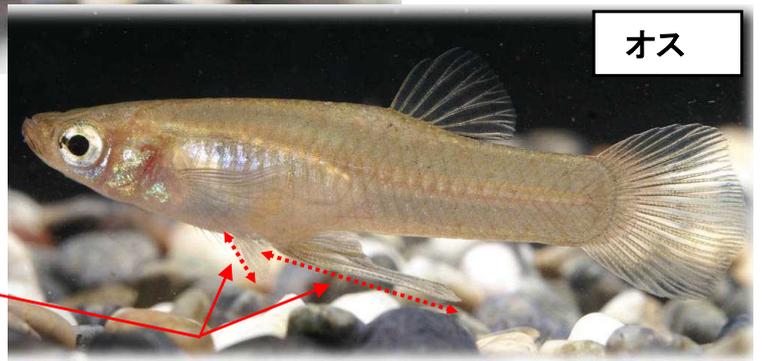


尾鰭（おびれ）の後縁は丸い

背鰭（せびれ）基部は臀鰭（しりびれ）基底の真ん中より後ろ

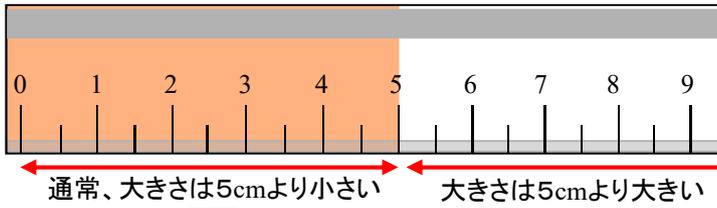
オスの臀鰭（しりびれ）は変形して交尾器になる  
交尾器は腹鰭（はらびれ）より著しく長い

オス



**特記事項：**カダヤシは各地の水田や用水路、池沼などに普通に生息しているので、水生生物調査や観察会などで採集されることがある。しかしながら、本種の飼養等は学術研究を除き原則的に禁止されており、生きたままの取り扱いには外来生物法に従って適切に行わなくてはならない。本種の防除については、ニュージーランドで様々な手法により実施されてきたが、日本では効果的な手法が確立されておらず、これまで対策が講じられることはなかった。今後は、メダカ等の在来生物の生息地保全のために、外来生物法に基づき、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、すでに定着している水域では必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、観賞魚として多数流通しているメダカ、グッピーなどを含むメダカ科やカダヤシ科には、カダヤシと形態が類似しているものもみられるが、体色や鰭の位置などに注目すれば、比較的容易に識別することができる。

# 日本に生息する他の淡水魚との識別ポイント

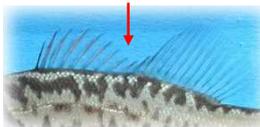


規制対象外

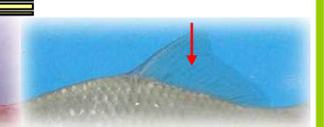
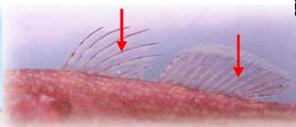
カダヤシではない



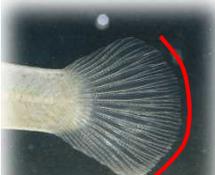
小さい背鰭が体の後ろの方に1つある。



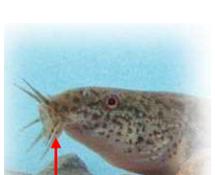
体の前の方から始まる大きな背鰭が1つあるか、背鰭は2つ以上ある。



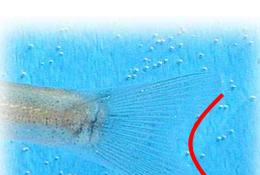
口にヒゲはない。



尾鰭の後縁は丸い。



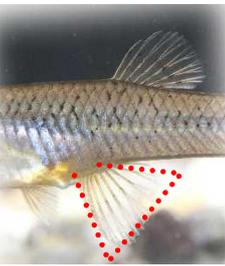
口にヒゲがある。



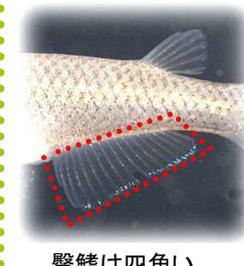
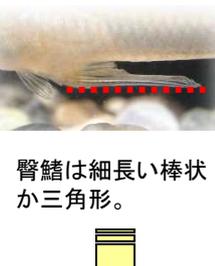
尾鰭の後縁は切れ込む。

規制対象外

メダカを正面や上から見ると、背中に1本の黒い線が見える。

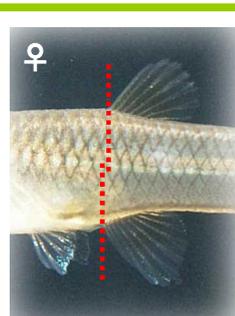


臀鰭は細長い棒状か三角形。

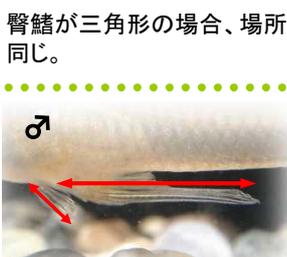


臀鰭は四角い。

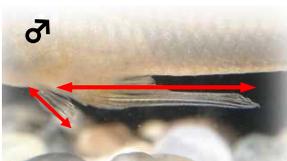
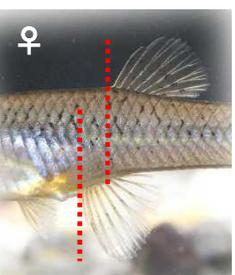
メダカ



臀鰭が棒状の場合、長さは腹鰭とほぼ同じ。



臀鰭が三角形の場合、場所は背鰭とほぼ同じ。

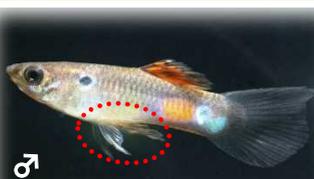


臀鰭が棒状の場合、長さは腹鰭の数倍。

臀鰭が三角形の場合、場所は背鰭より前。

規制対象外

グッピー (外来種)



オスは派手



オスもメスも地味

規制対象

カダヤシ



## カダヤシとグッピーの背鰭前方鱗数の比較



カダヤシ：16-17枚

規制対象



グッピー：11-13枚

規制対象外

# ガンブスィア・ホルブローキ

分類：カダヤシ目カダヤシ科

学名： *Gambusia holbrooki* Girard, 1859

英名： Eastern mosquitofish

別名： イースタン・ガンブスィア、モスキートフィッシュ、タップ  
ミノ、ガンブスィア・ホルブローキ

原産地と分布：原産地はアメリカ合衆国東部（ニュー  
ジャーシー州南部～アラバマ州）。現在では、移植に  
より、日本を含む世界各地に分布する。

未判定外来生物：なし

種類名証明書添付生物：カダヤシ及びガンブスィア・ホルブ  
ローキ

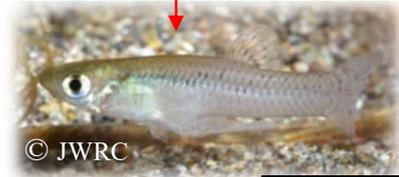
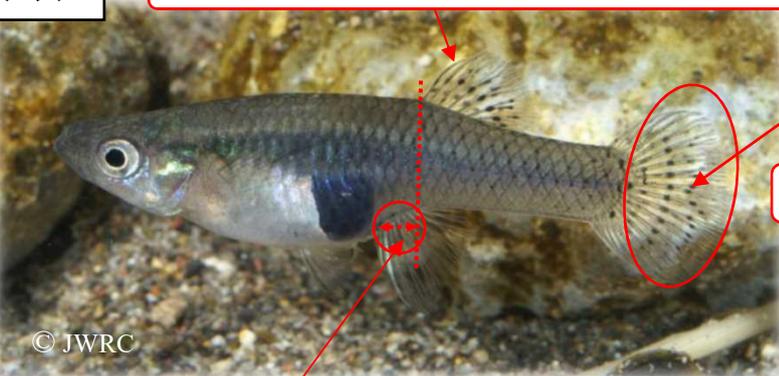
**形態的特徴：**体高が低く頭が尖り、メダカに似た体型をしている。口は小さい。背鰭（せびれ）は体の真ん中よりも後方にある。背鰭、臀鰭（しりびれ）ともに基底は短い。メスでは背鰭、臀鰭ともに後端が丸く同じような形をしているが、成熟したオスでは臀鰭は細長く変形して交尾器になる。交尾器は非常に長く、腹鰭（はらびれ）の長さの数倍になる。メスは背鰭基部が臀鰭基底の真ん中よりも後方にあることでよく似たグッピーのメスと見分けられる。オスメスともに尾鰭（おびれ）の後縁は丸い。背鰭前方の鱗数は16～17。体色は灰色から黄灰色。雄では体色が白黒のブチ模様になるタイプがある。全長はオスで最大3.5cm、メスで最大8cm程度までになる。

メス

背鰭（せびれ）は1つで体の真ん中より後ろ寄りにある

尾鰭（おびれ）  
の後縁は丸い

オスの、体色が白黒ブチ模様にならないタイプ



背鰭（せびれ）基部は臀鰭（しりびれ）基底の真ん中より後ろ

オス

交尾器は腹鰭（はらびれ）より著しく長い

腹鰭

オスの臀鰭（しりびれ）は  
変形して交尾器になる



**特記事項：**観賞魚として、よく似たメダカやグッピーが多数流通しているが、メダカは雌雄とも臀鰭基底がより長く、尾鰭の後縁が角張ることで、グッピーの雌は臀鰭と背鰭が対になるように位置することで識別できる。特定外来生物であるカダヤシと非常によく似ており、雄では体色が白黒模様になるタイプは体色で識別出来るほか、交尾器の細部の形状で識別できるが雌では識別は困難。その他にもカダヤシ科魚類は観賞魚として多くの種が利用されており、注意が必要。

# 特定外来生物同定マニュアル

## ブルーギル

分類: スズキ目サンフィッシュ科

学名: *Lepomis macrochirus* Rafinesque, 1819

英名: Bluegill

和名: ブルーギル

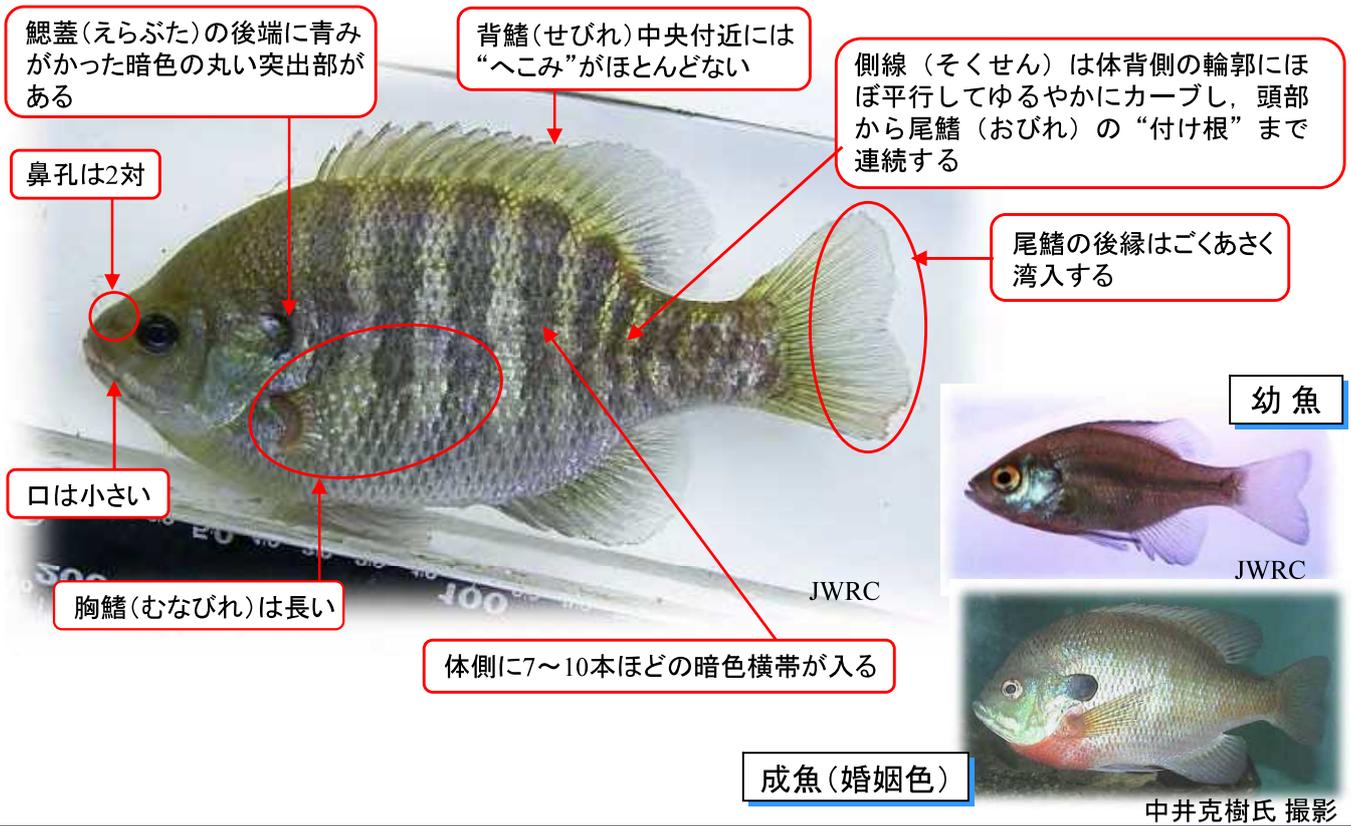
別名・流通名: ギル, ブルーギルサンフィッシュ

原産地と分布: 原産地は北アメリカ(メキシコ北東部～アメリカ合衆国東部)。現在では、移植により、日本を含む世界各地に生息する。

未判定外来生物: サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く)

種類名証明書添付生物: ナンダス科の1属(*Nandus*), プリストレピス科の1属(*Pristolepis*), ポリケントルス科の2属(*Afronanuds*, *Polycentropsis*)

**形態的特徴:** 体高が高い。口は小さく、顎の後端は眼の前縁下付近に達する程度。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)中央付近には“へこみ”がほとんどない。胸鰭(むなびれ)は長い。尾鰭の後縁はごくあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は40～44。体は淡灰褐色で、体側に7～10本ほどの暗色横帯がはいる。鰓蓋(えらぶた)の後端に青みがかった暗色の丸い突出部がある。最大で全長41cmのものも報告されているが、ふつうは25cm程度まで。



**特記事項:** 日本各地の河川や湖沼、ため池などに広く定着し、遊漁の対象にされているが、外来生物法により生きたままの個体の運搬、保管、飼養が原則的に禁止されているため、捕獲時には適正に取り扱わなくてはならない。内水面漁業や水生生物調査、自然観察会などで捕獲されることもあるが、その際の取り扱いについても同様である。在来生態系保全や漁業資源保護のために、各地で防除事業が実施されており、自治体によっては条例で再放流を禁じている。今後とも、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、すでに定着している水域では必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、防除の方針については、「オオクチバス等に係る防除の指針」を参照されたい。

# 特定外来生物同定マニュアル

## コクチバス

分類: スズキ目サンフィッシュ科

学名: *Micropterus dolomieu* Lacepède, 1802

英名: Smallmouth bass

和名: コクチバス

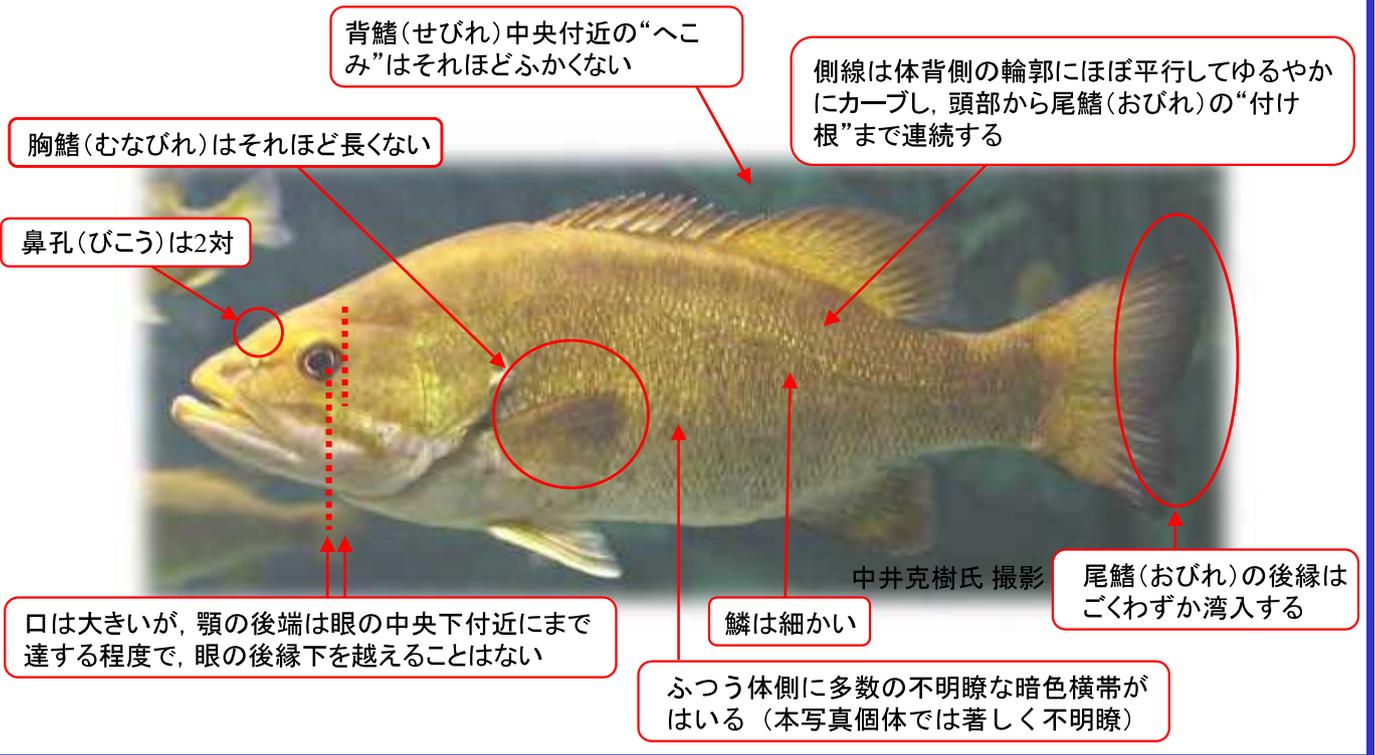
別名・流通名: スモールマウスバス, バス, ブラックバス, クロマス, コクチクロマス

原産地と分布: 原産地は北アメリカ(アメリカ合衆国東部)。現在では、移植により、日本を含む世界各地に生息する。

未判定外来生物: サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く), パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*, *Perca*, *Sander* (= *Stizostedion*), *Zingel*], ペルキクティス科の4属 (*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*), モロネ科の2属 (*Morone*, *Dicentrarchus*), ケツギョ科の2属 (*Siniperca*, *Hypopterus*)

種類名証明書添付生物: アカメ科の1属 (*Lates*), ケントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

**形態的特徴:** 体高が低い。口は大きく、顎の後端は眼の中央下付近にまで達するが、眼の後縁下を超えることはない。下顎は上顎よりも前につきだす。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)中央付近の“へこみ”はそれほど深くない。胸鰭(むなびれ)はそれほど長くない。尾鰭の後縁はごくあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は68~81。体は茶褐色で、背部はやや暗色がかかり、腹部は白色にちかい。ふつう体側に多数の不明瞭な暗色横帯はいる。最大で全長69cmのものも報告されているが、ふつうは50cm程度まで。



**特記事項:** 日本各地の河川や湖沼などに広く定着し、それらの水域や管理釣り場などで釣り魚として利用されているが、外来生物法により生きたままの個体の運搬、保管、飼養が原則的に禁止されているため、釣獲時には適正に取り扱わなくてはならない。内水面漁業や水生生物調査、自然観察会などで捕獲されることもあるが、その際の取り扱いについても同様である。在来生態系保全や漁業資源保護のために、各地で防除事業が実施されており、自治体によっては再放流を禁じている。今後とも、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、すでに定着している水域では必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、防除の方針については、「オオクチバス等に係る防除の指針」を参照されたい。

# オオクチバス

分類: スズキ目 サンフィッシュ科

学名: *Morone saxatilis* (Walbaum, 1792)

英名: Largemouth bass

和名: オオクチバス

別名・流通名: バス, ブラックバス, クロマス, オオクチクロマス, フロリダバスあるいはフロリダラージマウスバス(フロリダ産亜種), ノーザンラージマウスバス(フロリダ半島以外の地域原産の基亜種)

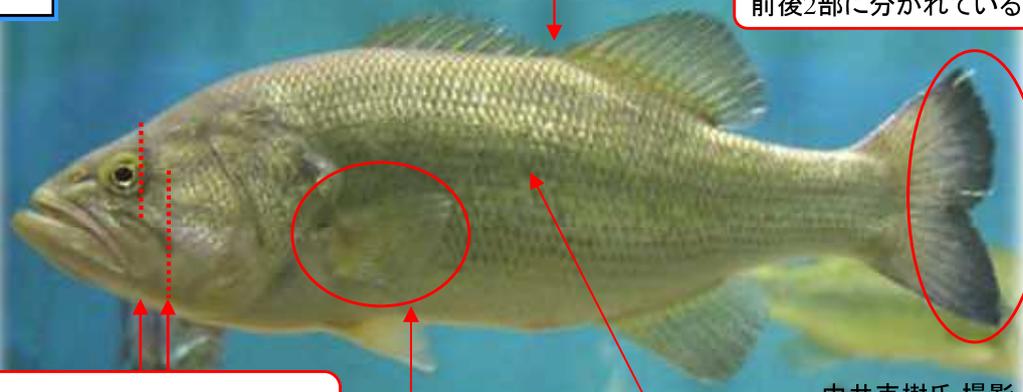
原産地と分布: 原産地は北アメリカ(メキシコ北東部～アメリカ合衆国東部)。現在では、移植により、日本を含む世界各地に分布する。

**未判定外来生物:** サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く), パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*, *Perca*, *Sander* (= *Stizostedion*), *Zingel*], ペルキクティス科の4属 (*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*), モロネ科の2属 (*Morone*, *Dicentrachus*), ケツギョ科の1属 (*Siniperca*)

**種類名証明書添付生物:** アカメ科の2属 (*Lates*, *Hypopterus*)、ケントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

**形態的特徴:** 体高が低い。口が大きく、顎の後端は眼の後縁下よりも後方にまで達する(幼魚をのぞく)。下顎は上顎よりも前につきだす。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)の中央付近にふかい“へこみ”があり、前後2部に分かれているように見える。胸鰭(むなびれ)はそれほど長くない。尾鰭の後縁はごくあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は58～75。体は淡い灰褐色～銀白色で、背部は暗色がかり、腹部は白色にちかい。体側に黒斑列があり(幼若魚で鮮明)、なかでもとくに鼻先～眼から体側中央をとおり尾鰭(おびれ)基部にまで達する1列が最も明瞭で縦帯状となる。最大で全長97cmとされるが、ふつうは50cm程度まで。

## 成魚



背鰭(せびれ)の中央付近にふかい欠刻があり前後2部に分かれているように見える

口が大きく、顎の後端は眼よりも後ろにまで達する(幼魚をのぞく)

尾鰭(おびれ)の後縁はごくあさく湾入する

中井克樹氏 撮影

胸鰭(むなびれ)はそれほど長くない

## 幼魚



体側に黒斑列がある(幼若魚でとくに鮮明)

※側線や鼻孔の状態についてはコクチバスの図を参照のこと

JWRC

**特記事項:** 日本各地の河川や湖沼、ため池などに広く定着し、それらの水域や管理釣り場などで釣り魚として利用されているが、外来生物法により生きたままの個体の運搬、保管、飼養が原則的に禁止されているため、釣獲時には適正に取り扱わなくてはならない。内水面漁業や水生生物調査、自然観察会などで捕獲されることもあるが、その際の取り扱いについても同様である。在来生態系保全や漁業資源保護のために、各地で防除事業が実施されており、自治体によっては条例で再放流を禁じている。今後とも、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、すでに定着している水域では必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、防除の方針については、「オオクチバス等に係る防除の指針」を参照されたい。

# ラウンドゴビー

分類：スズキ目ハゼ科

学名： *Neogobius melanostomus* (Pallas, 1814)

英名： Round goby

和名： ラウンドゴビー

別名： ブラックスポットテッド・ゴビー

原産地と分布： 原産地はアゾフ海、黒海、カスピ海流域。運河や人工の水路を伝ってヨーロッパや中央アジアの非分布域に侵入しているほか、スウェーデンやオランダ、クロアチア、アメリカ合衆国、カナダの五大湖地方に非意図的に移入されて分布している。

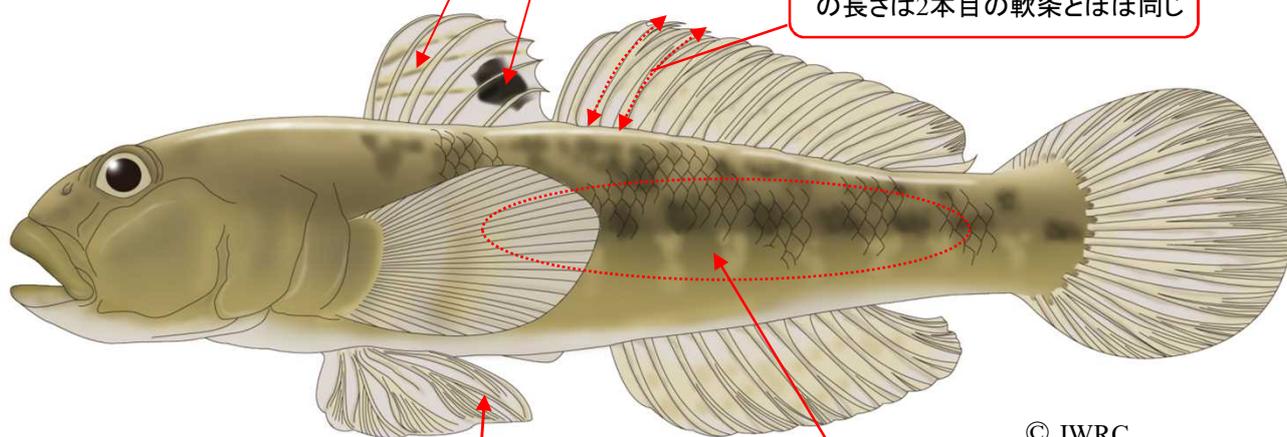
未判定外来生物：なし

種類名証明書添付生物：ネオゴビウス属の全種

**形態的特徴：** 体型はハゼ型で、背鰭は2基あり、腹鰭は吸盤状になる。第2背鰭の第1軟条の長さは、第2軟条の長さと同様。体色は、背面と側面が黄色から灰色で暗色斑がまばらにあり、腹面は白から灰色。第1背鰭には2～3本の横線と大きく明瞭な黒斑がある。繁殖期の雄は全体的に黒くなり、背鰭や尾鰭の外縁が白く縁取られる。全長は最大で24.6cm。

第1背鰭(せびれ)に2～3本の横線と大きな黒斑がある

第2背鰭(せびれ)の1本目の軟条の長さは2本目の軟条とほぼ同じ



© JWRC

腹鰭(はらびれ)は吸盤状

体側にはまばらに暗色斑がある

**特記事項：** 国内には未侵入。海外では競争や捕食などにより在来生態系に被害を及ぼした例がある。ハゼ科魚類は種数が膨大であり、識別が困難なため注意が必要。

# ナイルパーチ

分類：スズキ目アカメ科

学名：*Lates niloticus* (Linnaeus, 1758)

英名：Nile perch

和名：ナイルパーチ

別名：グレートナイルパーチ

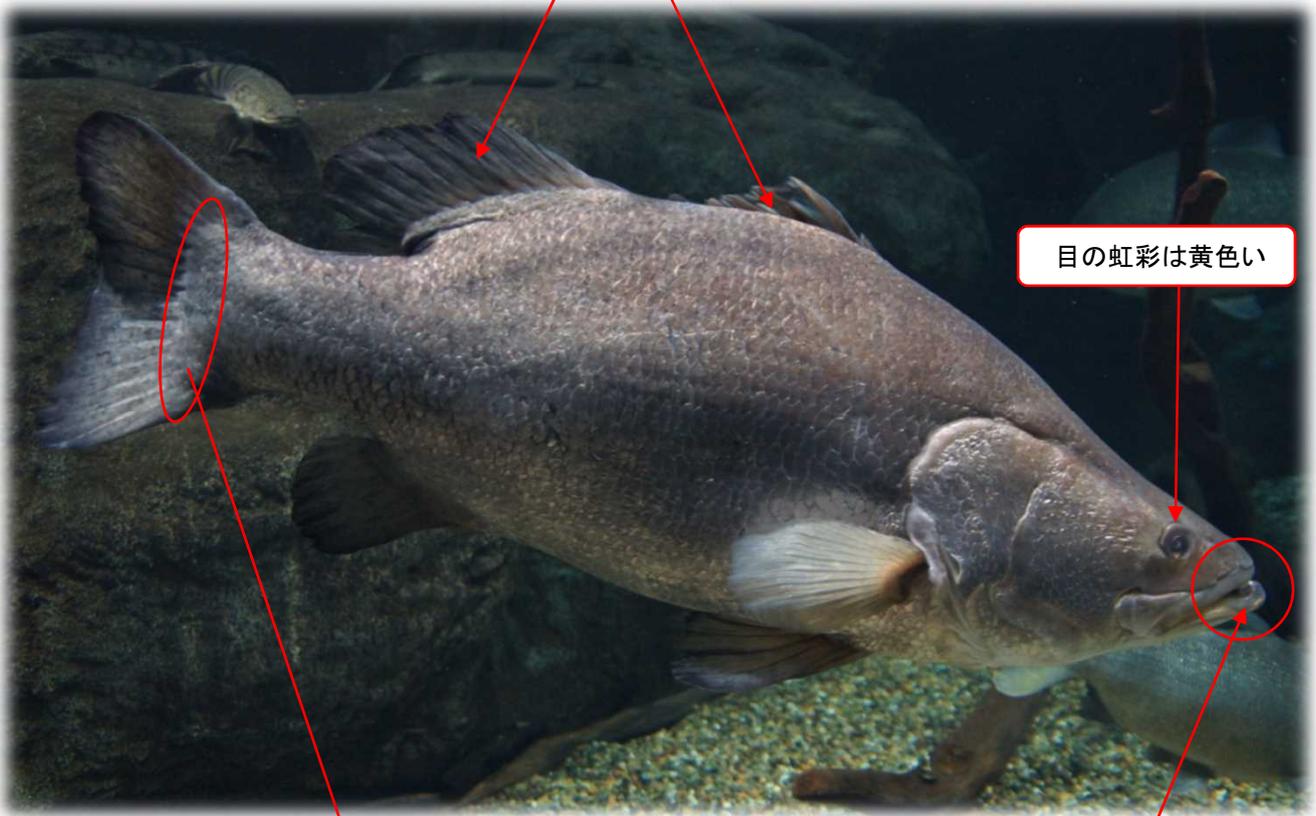
原産地と分布：原産地は西アフリカからナイル川流域。アフリカのキヨガ湖、ナビューガボ湖、ビクトリア湖へ導入されているほか、アメリカ合衆国とキューバにも導入されている。キューバでは定着していると考えられている。

未判定外来生物：なし

種類名証明書添付生物：アカメ科の全種

**形態的特徴**：体型はスズキ型。上顎よりも下顎が突出する。体色は、背面が青味がかかった暗灰色で側面と腹面は銀灰色。稚魚は体側や頭部に不規則な茶色いまだら模様がある。成魚の目の虹彩は黄色い。最大で全長2mになる。背鰭は2つに分かれるが、第1背鰭と第2背鰭は非常に近接している。尾鰭の基部は鱗で覆われる。

背鰭(せびれ)は2つに分かれるが、第1背鰭と第2背鰭は非常に近接する



目の虹彩は黄色い

尾鰭(おびれ)基部は鱗でおおわれる

上顎(うわあご)よりも下顎(したあご)が突出する

**特記事項**：国内には未定着。海外では、アフリカにおいて在来種を200種も絶滅させる甚大な被害を出しており、外来種による被害の世界的な代表例として知られている。水温12～15℃を下回る環境においては生残できないため、国内で定着可能な場所は限られると思われるが、南方の亜熱帯地域では注意が必要。

# ホワイトパーチ

分類：スズキ目モロネ科

学名： *Morone americana* (Gmelin, 1789)

英名： White perch

和名： ホワイトパーチ

別名： シルバーパーチ、レックフィッシュ

原産地と分布： 原産地はアメリカ北東部からカナダ南東部の沿岸地域。運河を伝って五大湖及びその周辺の非分布域に侵入しているほか、人為的に持ち込まれてアメリカ合衆国の15の州とカナダのオンタリオ州に分布している。

未判定外来生物：モロネ科の全種。ただし、ストライプトバス、ホワイトバス、ホワイトパーチを除く。

種類名証明書添付生物：モロネ科の全種

**形態的特徴：** 体形はスズキ型。体高が高く、同属の中で最も寸詰まりな体型をしている。背鰭は2基ある。臀鰭の軟条数は8～10本。臀鰭には3本の棘があるが、2本目と3本目の長さはほぼ同じ。体色は背面がオリーブ色で体側及び腹面が銀色。よく似た同属のストライプトバスやホワイトバスにあるような体側面の縞模様は本種には無い(ただし、幼魚の頃には不規則な色の薄い暗色斑や崩れた太い横線状の模様があることがある)。本種はストライプトバスと交雑して雑種を作るが、交雑種との識別は難しい。全長は最大で49.5cm。

体高が高く、同属内で最も寸詰まりな体型

体側面に目合った線や模様はない(ただし、幼魚の頃には崩れた太い線状の模様があることがある)

臀鰭(しりびれ)の2本目の棘と3本目の棘の長さはほぼ同じ

臀鰭(しりびれ)軟条数は8～10本

© JWRC

**特記事項：** 国内には未侵入。海外では競争や捕食などにより在来生態系に被害を及ぼしたり漁業被害を起こした例がある。本属魚類は同属内で雑種を作ることが知られており、商業的に雑種を養殖して活用している例もある。雑種は両種の間的な特徴をもち、識別が困難なため注意が必要。

# ホワイトバス

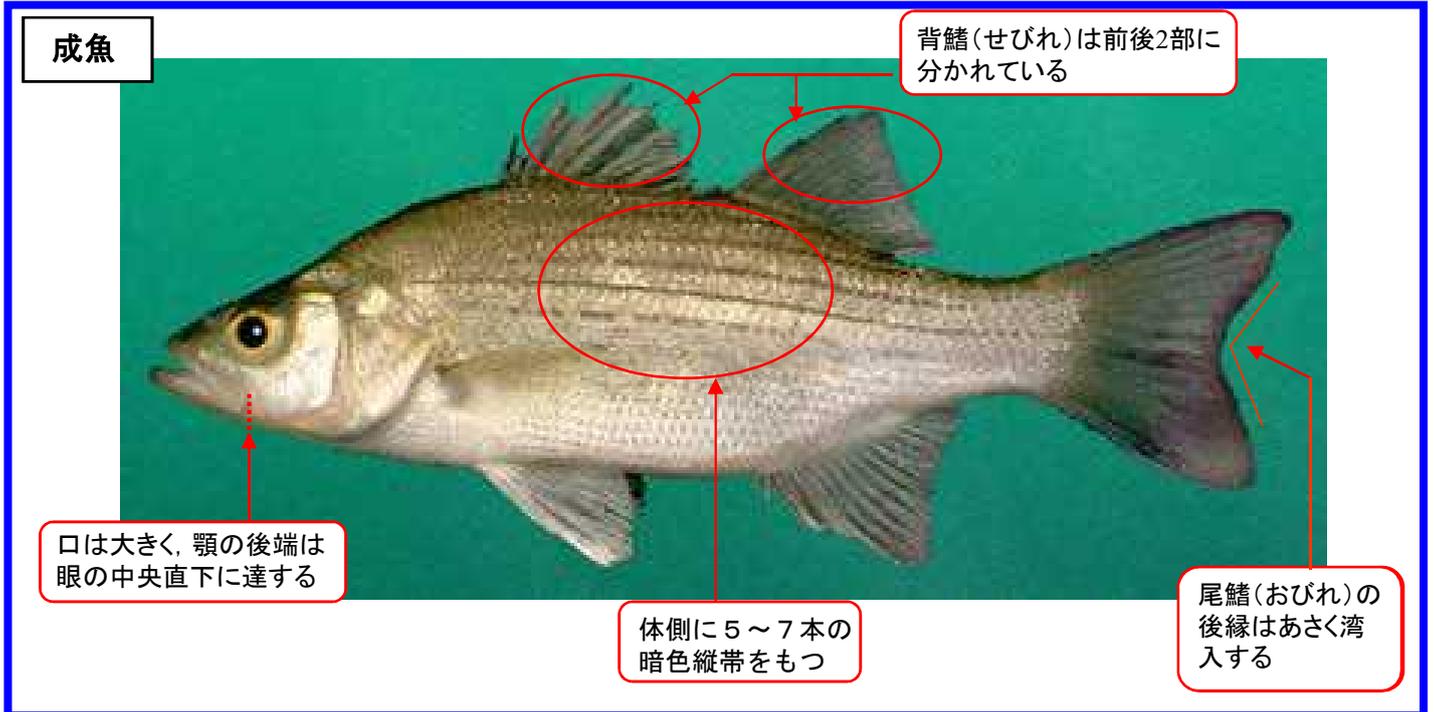
分類：スズキ目モロネ科

学名： *Morone chrysops* (Rafinesque, 1820)

英名： White bass

別名： White perch

原産地と分布：原産地は北アメリカ。現在では移植により、日本、中国、プエルトルコ、イスラエルなどで分布が確認されているが、定着の有無は不明。



**形態的特徴：**体高はやや高い。口はやや大きく、顎の後端は眼の中央直下に達する（幼魚をのぞく）。下顎は上顎よりもわずかに前に出る。鼻孔は2対。側線（そくせん）は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭（おびれ）の“付け根”まで連続する。背鰭（せびれ）は、前後2部に分かれている。胸鰭はそれほど長くない。尾鰭の後縁はあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は52~60。体は淡い灰褐色~銀白色で、体側に5~7本の暗色縦帯をもつ。最大で全長45cmに達する。

**付随する未判定外来生物種：**サンフィッシュ科全種（オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く）、パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*, *Perca*（ヨーロピアンパーチを除く）, *Sander*（パイクパーチを除く）, *Zingel*]、ペルクティス科の4属 (*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*)、モロネ科の2属 [*Morone*（ストライプトバス・ホワイトバスを除く）, *Dicentrachus*]、ケツギョ科の1属 [*Siniperca*（ケツギョ・コウライケツギョを除く）]

**付随する種類名添付対象種：**アカメ科の2属 (*Lates*, *Hypopterus*)、ケントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

**その他の類似外来種：**多くの典型的なスズキ目魚類が該当する可能性があるが、本種と同じ淡水魚に限れば、同目内では上記のもの以外にもカワスズメ科などに体形や体色が類似するものが多い。カワスズメ科魚類は観賞魚として国内でも古くから常時多数が流通しており（“シクリッド”と総称されることが多い）、本種に類似するものも含まれるため、注意が必要。

# ストライプトバス

学名：*Morone saxatilis* (Walbaum, 1792)

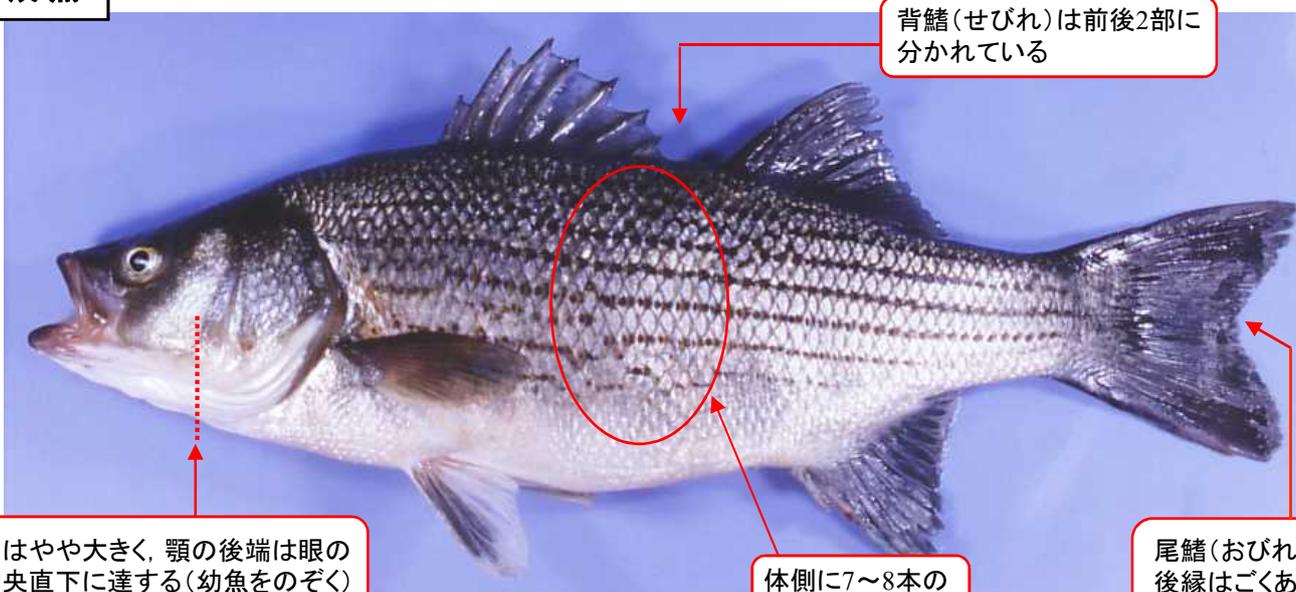
分類：スズキ目モロネ科

英名：Striped bass; Striped sea-bass

別名：シマスズキ、ストライパー

原産地と分布：原産地は北アメリカ。現在では移植により、日本、イラク、エクアドル、ロシア、南アフリカなどで分布が確認されている。

## 成魚



背鰭(せびれ)は前後2部に  
分かれている

口はやや大きく、顎の後端は眼の  
中央直下に達する(幼魚をのぞく)

体側に7~8本の  
黒色縦帯がある

尾鰭(おびれ)の  
後縁はごくあさく  
湾入する

**形態的特徴：**体高はやや高い。口はやや大きく、顎の後端は眼の中央の直下に達する（幼魚をのぞく）。下顎は上顎よりもわずかに前に出る。鼻孔は2対。側線（そくせん）は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭（おびれ）の“付け根”まで連続する。背鰭（せびれ）は、前後2部分に分かれている。胸鰭はそれほど長くない。尾鰭の後縁はあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は53~68。体は銀白色で、体側に7~8本の黒色縦帯をもつ。最大で全長200cmとされるが、ふつうは50cm程度まで。

**付随する未判定外来生物種：**サンフィッシュ科全種（オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く）、パーチ科の4属〔*Gymnocephalus*, *Perca*（ヨーロッパアンパーチを除く）, *Sander*（パイクパーチを除く）, *Zingel*〕, ペルキクティス科の4属（*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*）, モロネ科の2属〔*Morone*（ストライプトバス・ホワイトバスを除く）, *Dicentrachus*〕, ケツギョ科の1属〔*Siniperca*（ケツギョ・コウライケツギョを除く）〕

**付随する種類名添付対象種：**アカメ科の2属（*Lates*, *Hypopterus*）, ケントロポムス科の1属（*Centropomus*）

**その他の類似外来種：**多くの典型的なスズキ目魚類が該当する可能性があるが、本種と同じ淡水魚に限れば、同目内では上記のもの以外にもカウスズメ科などに体形や体色が類似するものが多い。カウスズメ科魚類は観賞魚として国内でも古くから常時多数が流通しており（“シクリッド”と総称されることが多い）、本種に類似するものも多く含まれるため、注意が必要。

# ホワイトバスとストライプトバスとの交雑個体

分類:スズキ目モロネ科(狭義)

学名: *Morone saxatilis* × *M. chrysops*

英名: Sunshine bass, Palmetto bass

和名: ホワイトバスとストライプトバスが交雑することにより生じた生物

別名・流通名: サンシャインバス、パルメットバス、ホワイトロックバス、ストライパー

原産地と分布: 北アメリカ(親魚である2種の原産地)

**未判定外来生物:**モロネ科(Moronidae)に属する種間の交雑により生じた生物。ただし、ホワイトバス×ストライプトバスを除く。

**種類名証明書添付生物:**モロネ科に属する種間の交雑により生じた生物。

**形態的特徴:**全長80cm、体重12kg以上になる。スズキ型の体形をしており、白銀色の魚体で、体側に細い黒縦線が数本入る。日本に同属の在来種は生息していない。

ストライプトバス(*Morone saxatilis*)は当該交雑個体に比べて体型が細長いこと、体側の線はほとんど崩れないで頭部の後方から尾鰭の前まで繋がることで識別できる。ホワイトバス(*M. chrysops*)は体側の線が交雑個体ほど大きく崩れないこと、臀鰭の棘が交雑個体に比べて長いことで識別できる。ホワイトパーチ(*M. americana*)とイエローパーチ(*M. mississippiensis*)の2種は、臀鰭の棘が前記の種に比べてより長い(臀鰭軟条の一番長いものと同じくらい)ことで交雑個体と識別出来る。

ホワイトバス×ストライプトバス全身



体側の黒い線は繋がらずに大きく崩れる。

臀鰭の棘は比較的短い。

**特記事項:**一部の管理釣り場で釣魚として利用されていたことがある。また、台湾ではサンシャインバスが食材及びスポーツフィッシングの対象として盛んに養殖されている。

当該交雑種の親魚2種以外でモロネ科に属する種間の交雑種として、バージニアバス(ストライプトバス(メス)×ホワイトパーチ(オス))、メリーランドバス(ホワイトパーチ(メス)×(ストライプトバス(オス)))、パラダイスバス(ストライプトバス(メス)×イエローバス(オス))等がある。

# ラッフ

分類：スズキ目パーチ科

学名： *Gymnocephalus cernua* (Linnaeus, 1758)

英名： Ruffe

和名： ラッフ

別名：ブラックテイル、ポープ、レッドフィンダーター、リバーラッフ、ユーラシアンラッフ

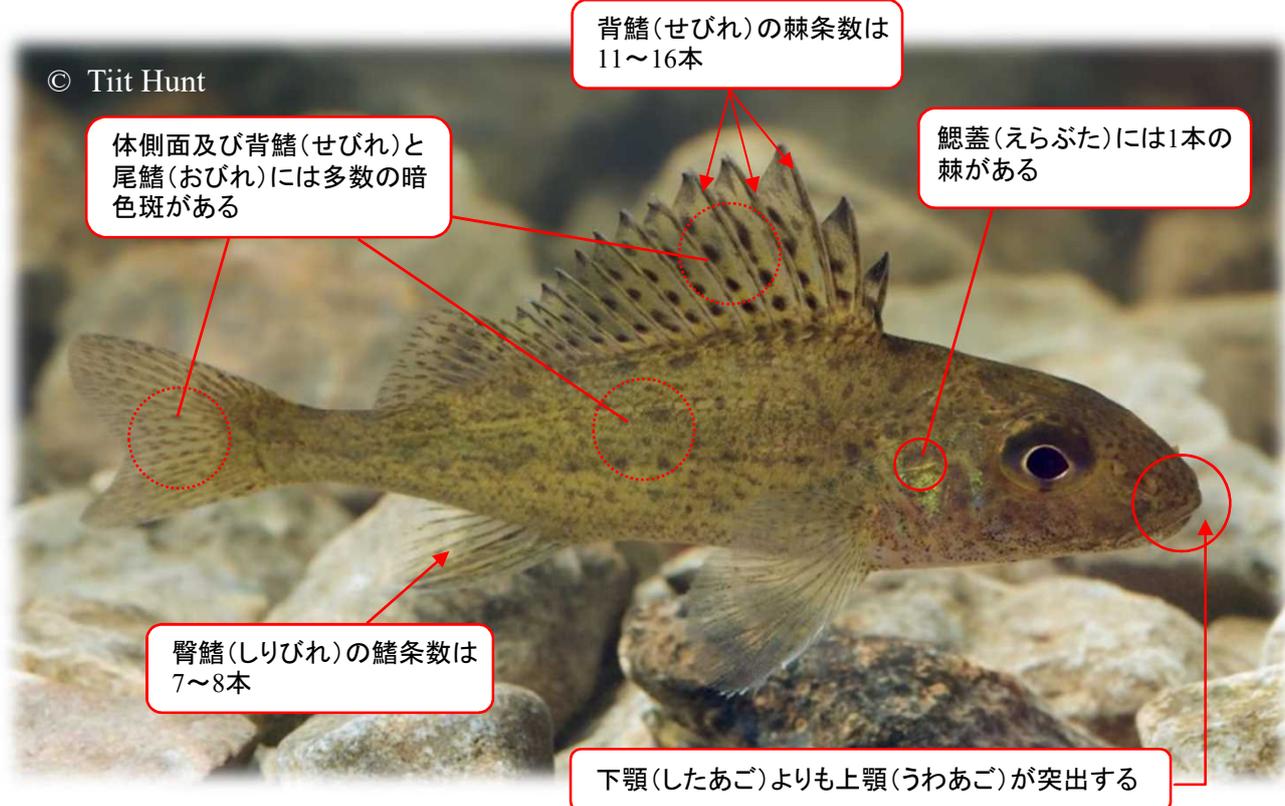
原産地と分布：原産地はイギリスからロシア、中国までのユーラシア大陸。移入により、イタリアやフランスの非分布域のほか、イギリスのスコットランド、アメリカ合衆国、カナダに分布している。

**未判定外来生物**：ギムノケファルス属の全種。ただし、ラッフを除く。

**種類名証明書添付生物**：ギムノケファルス属、*Perca*属、*Sander*属、*Zingel*属の全種

**形態的特徴**：体色は背面と側面がオリーブ褐色から黄褐色で、腹面が黄白色。体側面及び背鰭と尾鰭には多数の暗色斑がある。上顎が下顎よりやや突出する。背鰭の棘条数は11～16本。鰓蓋骨には1本の棘がある。全長は最大で25cm。

© Tiit Hunt



**特記事項**：国内には未侵入。海外では競争や卵の捕食などにより在来魚に被害を及ぼした例がある。同属の他種(種類名証明書添付生物)とは背鰭の棘数や鰓蓋の棘の本数、体色などで識別できる。

# ヨーロッパパーチ

分類：スズキ目パーチ科

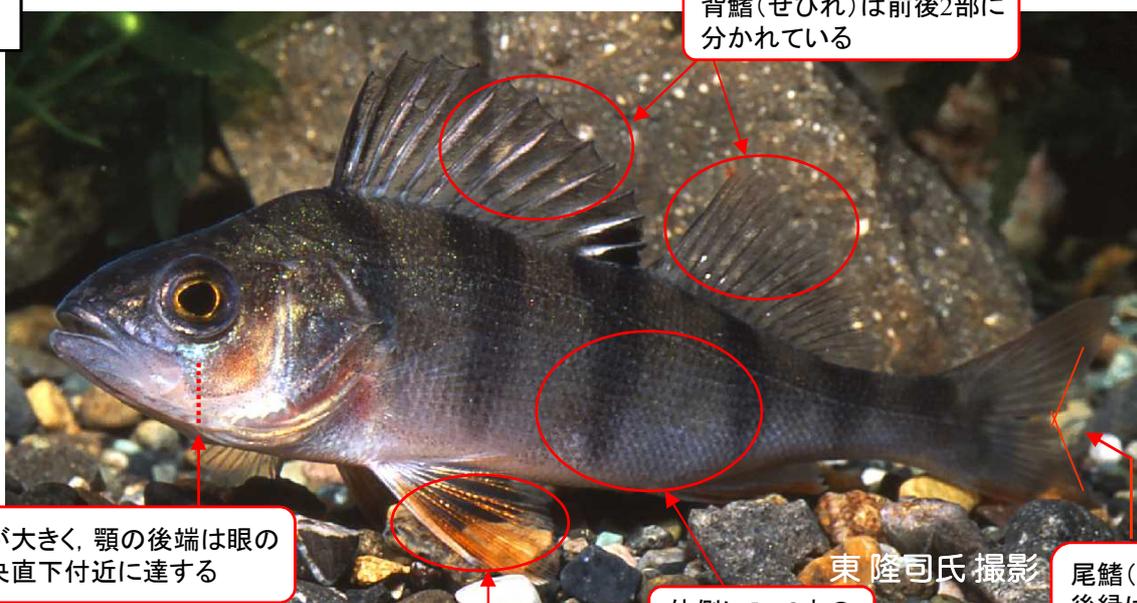
学名：*Perca fluviatilis* Linnaeus, 1758

英名：European perch

別名：Perch（パーチ）、Barsch（バルシュ）、Perche fluviatile（ペルシュ・フルビアテュー）、Okun（オクン）

原産地と分布：原産地はヨーロッパ～シベリア。現在では移植により、南アフリカ、モロッコ、キプロス、ニュージーランドなどで分布が確認されている。

## 幼魚



口が大きく、顎の後端は眼の中央直下付近に達する

腹鰭(はらびれ)は赤色

体側に5~9本の黒い横縞がある

尾鰭(おびれ)の後縁はあさく湾入する

東隆司氏撮影

**形態的特徴：**体高はたかく、側扁する。口はやや大きく、顎の後端は眼の中央直下付近に達する。下顎は上顎よりも前につきだす。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)は、前後2部分に分かれている。胸鰭はそれほど長くない。尾鰭の後縁はあさく湾入する。鱗は細かい。緑黄色の体側には、5~9本の黒い横縞がある。腹鰭、臀鰭、尾鰭の下端は赤色となる。最大で全長51cmとされるが、ふつうは20~35cm程度まで。

**付随する未判定外来生物種：**サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く)、パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*, *Perca* (ヨーロッパパーチを除く), *Sander* (パイクパーチを除く), *Zingel*]、ペルクティス科の4属 (*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*)、モロネ科の2属 [*Morone* (ストライプトバス・ホワイトバスを除く), *Dicentrarchus*]、ケツギョ科の1属 [*Siniperca* (ケツギョ・コウライケツギョを除く)]

**付随する種類名添付対象種：**アカメ科の2属 (*Lates*, *Hypopterus*)、ケントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

**その他の類似外来種：**多くの典型的なスズキ目魚類が該当する可能性があるが、本種と同じ淡水魚に限れば、同目内では上記のもの以外にもカワズメ科などに体形や体色が類似するものが多い。カワズメ科魚類は観賞魚として国内でも古くから常時多数が流通しており(“シクリッド”と総称されることが多い)、本種に類似するものも多く含まれるため、注意が必要。

# パイクパーチ

学名：*Sander\* lucioperca* (Linnaeus, 1758)

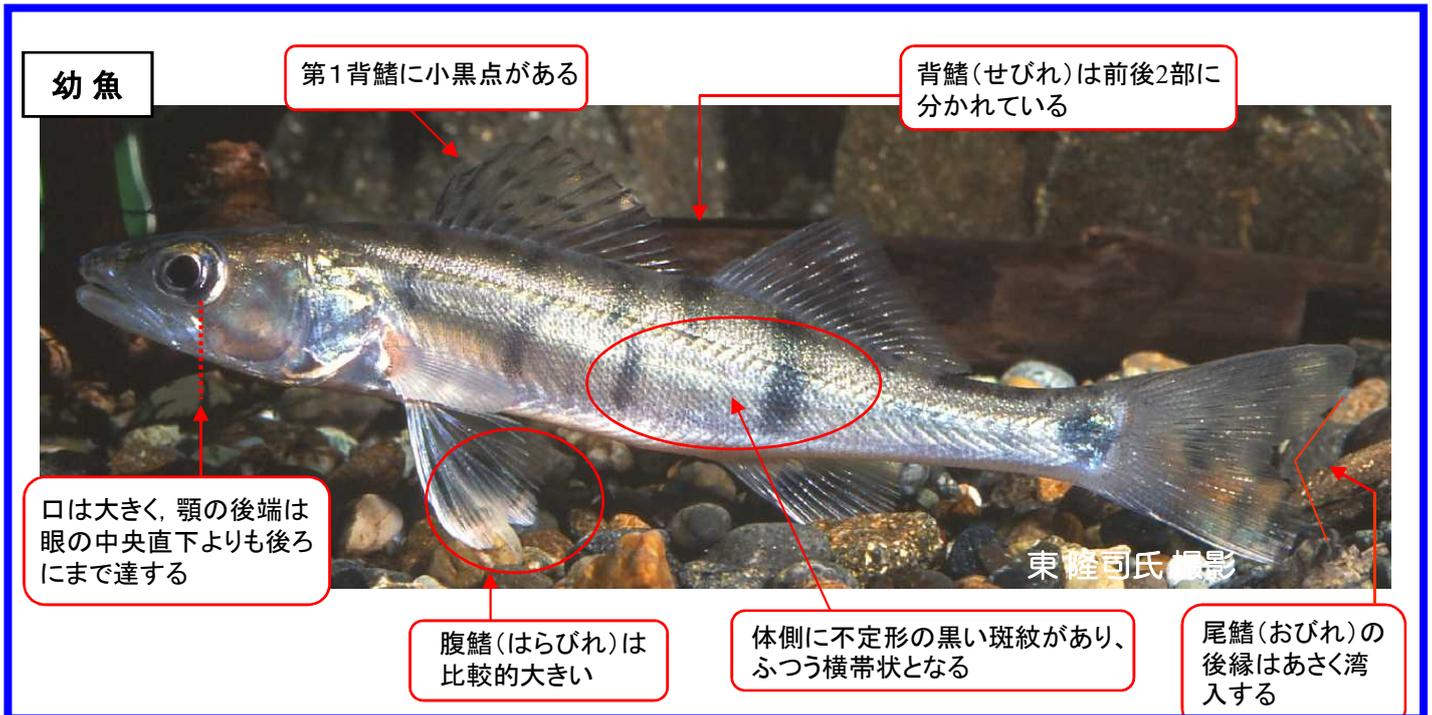
分類：スズキ目パーチ科

英名：Pikeperch

別名：Zander（ザンダー）、Sandre（サンドル）、Sudak（スダーク）

原産地と分布：原産地はヨーロッパ東部、中部、アジア西部。現在では移植により、原産地以外のヨーロッパ諸国にも定着している。

\*アメリカの研究者は*Stizostedion*の属名を採用している。



**形態的特徴：**体高がひくい。口は比較的大きく、鋭い歯を備えている。顎の後端は眼の中央直下を越える。下顎は上顎よりもやや前に出る。鰓蓋に棘は無い。鼻孔は2対。側線（そくせん）は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭（おびれ）の“付け根”まで連続する。背鰭（せびれ）は、前後2部に分かれている。胸鰭はそれほど長くない。腹鰭は比較的大きい。尾鰭の後縁はあさく湾入する。鱗は細かい。体は淡い灰褐色～銀白色である。体側には不定形の黒い斑紋があり、ふつう横帯状となる。第1背鰭には小黑点が並ぶ。最大で全長130cmに達するが、ふつうは30～70cmほどまで。

**付随する未判定外来生物種：**サンフィッシュ科全種（オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く）、パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*, *Perca*（ヨーロピアンパーチを除く）、*Sander*（パイクパーチを除く）、*Zingel*]、ペルクテイス科の4属 (*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*)、モロネ科の2属 [*Morone*（ストライプトバス・ホワイトバスを除く）、*Dicentrachus*]、ケツギョ科の1属 [*Siniperca*（ケツギョ・コウライケツギョを除く）]

**付随する種類名添付対象種：**アカメ科の2属 (*Lates*, *Hypopterus*)、ケントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

**その他の類似外来種：**多くの典型的なスズキ目魚類が該当する可能性があるが、本種と同じ淡水魚に限れば、同目内では上記のもの以外にもカワズメ科などに体形や体色が類似するものが多い。本科魚類は観賞魚として国内でも古くから常時多数が流通しており（“シクリッド”と総称されることが多い）、本種に類似するものも多く含まれるため、注意が必要。

# 特定外来生物同定マニュアル

## ケツギョ

分類: スズキ目スズキ亜目ケツギョ科

学名: *Siniperca chuatsi* (Basilewsky, 1855)

英名: Chinese perch

和名: ケツギョ

別名・流通名: 魚厥、胖魚厥、桂花魚、桂魚、母猪壳、季花魚、ケイギョ

原産地と分布: 原産地はアジア東部(中国各地、アムール川)だが、現在では移植により台湾などで分布が確認されている。

**未判定外来生物:** サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く)、パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*, *Perca*(ヨーロッパアンパーチを除く)、*Sander*(バイクパーチを除く)、*Zingel*]、ペルクテイス科の4属 (*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*)、モロネ科の2属 [*Morone*(ストライプトバス・ホワイトバスを除く)、*Dicentrachus*]、ケツギョ科の1属 [*Siniperca*(ケツギョ・コウライケツギョを除く)]

**種類名証明書添付生物:** アカメ科の2属 (*Lates*, *Hypopterus*)、ケントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

**規制対象外の類似生物:** ケツギョと同じ淡水魚に限れば、国内で観賞魚として古くから流通しているカワズメ科魚類(“シクリッド”と総称されることが多い)と体形などが類似している。

**形態的特徴:** 体高が高く、側扁し、背部は隆起する。口が大きく。顎の後端は眼の後縁に達し(幼魚をのぞく)、下顎は上顎よりも前につきだす。鼻孔は2対。前鰓蓋骨後縁は鋸状で、4~5個の大きい棘がある。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし。頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)の中央付近にふかい“へこみ”があり。前部は硬い棘からなる。尾鰭の後縁は丸い。鱗は細かい。体は黄緑色、腹部は灰白色。体側には不規則な形をした暗褐色の斑点がある。吻から眼を経て、背鰭前背方にかけて、1条の細長い帯紋がある。背鰭の第6~7棘の下に1条の幅広い垂直帯紋がある。各鰭上に暗褐色の斑点が帯状に並ぶ。最大で全長65cmに達する。

### 成魚

吻から眼を経て、背鰭前背方にかけて、1条の細長い暗色帯紋がある

背鰭(せびれ)の中央付近に深い欠刻があり、前後2部に分かれているように見える。前部は鋭い棘からなる。



小林 圭介氏 撮影

口が大きく、顎の後端は眼よりも後ろにまで達する(幼魚をのぞく)

体側には不規則な形をした暗褐色の斑紋がある

尾鰭(おびれ)の後縁は丸い

**特記事項:** 外来生物法に基づき、学術研究を除く飼養等は原則的に禁じられている。日本国内ではこれまで観賞用として一部で流通していたが、今後は無許可での飼養は法令違反の対象となる。なお、観賞魚として多数流通しているシクリット科やアカメ科などには、ケツギョと形態が類似しているものもみられるが、体色や鰭の形状などに注目すれば、比較的容易に識別することができる。本種は「桂魚」と呼ばれ、中華料理の食材としても用いられるが、飼養はもちろんのこと、活魚での運搬や保管も禁じられている。

# コウライケツギョ

分類: スズキ目スズキ亜目ケツギョ科

学名: *Siniperca scherzeri* Steindachner, 1892  
英名: なし  
和名: コウライケツギョ  
別名・流通名: 斑口、高麗桂魚、ソガリ  
原産地と分布: 原産地はアジア東部(中国、朝鮮半島、ベトナム)

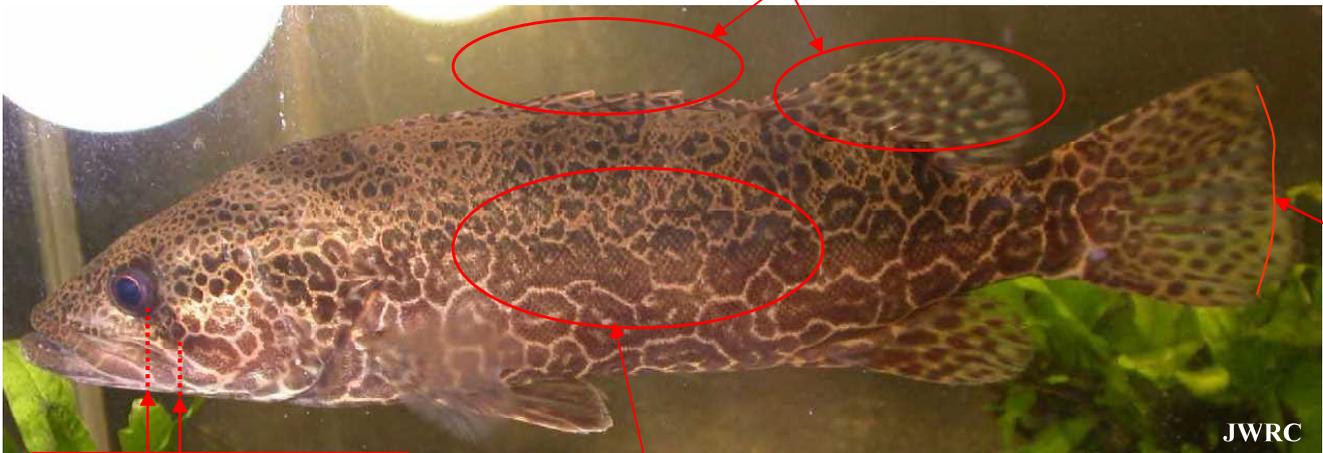
**未判定外来生物:** サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く)、パーチ科の4属[*Gymnocephalus*、*Perca*(ヨーロッパアンパーチを除く)、*Sander*(パイクパーチを除く)、*Zingel*]、ペルキクティス科の4属(*Percichthys*、*Gadopsis*、*Maccullochella*、*Macquaria*)、モロネ科の2属[*Morone*(ストライプトバス・ホワイトバスを除く)、*Dicentrarchus*]、ケツギョ科の1属[*Siniperca*(ケツギョ・コウライケツギョを除く)]

**種類名証明書添付生物:** アカメ科の2属(*Lates*、*Hypopterus*)、セントロポムス科の1属(*Centropomus*)

**規制対象外の類似生物:** コウライケツギョと同じ淡水魚に限れば、国内で観賞魚として古くから流通しているカワスズメ科魚類(“シクリッド”と総称されることが多い)と体形などが類似している。

**形態的特徴:** 体高がやや高く、側扁する。口が大きく、顎の後端は眼の後縁に達し、下顎は上顎よりも前につきだす。鼻孔は2対。前鰓蓋骨後縁は鋸状で、4~5個の棘がある。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)の中央付近にふかい“へこみ”があり、前部は硬い棘からなる。尾鰭の後縁は丸い。鱗は細かく、側線鱗数は104~124。頭部や体側には、縁取りのある不規則な豹柄の暗色斑紋がある。各鰭条に暗褐色の斑点が並ぶ。最大で全長30cmほど。

## 成魚



背鰭(せびれ)の中央付近に深い欠刻があり、前後2部に分かれているように見える。前部は鋭い棘からなる。

口が大きく、顎の後端は眼よりも後ろにまで達する(幼魚をのぞく)

体側には縁取りのある不規則な豹柄の小黑斑がある

尾鰭(おびれ)の後縁は丸い

**特記事項:** 外来生物法に基づき、学術研究を除く飼養等は原則的に禁じられている。原産地では釣り魚として人気がある。日本国内ではこれまで観賞用として一部で流通していたが、今後は無許可での飼養は法令違反の対象となる。なお、観賞魚として多数流通しているシクリッド科やアカメ科などには、コウライケツギョと形態が類似しているものもみられるが、体色や鰭の形状などに注目すれば、比較的容易に識別することができる。本種は「ソガリ」と呼ばれ、韓国料理の食材としても用いられるが、飼養はもちろんのこと、活魚での運搬や保管も禁じられている。